

リベリア ニンバ山脈地帯森林保全プロジェクト

現地からのお便り

2015 年 4 月
コンサベーション・インターナショナル

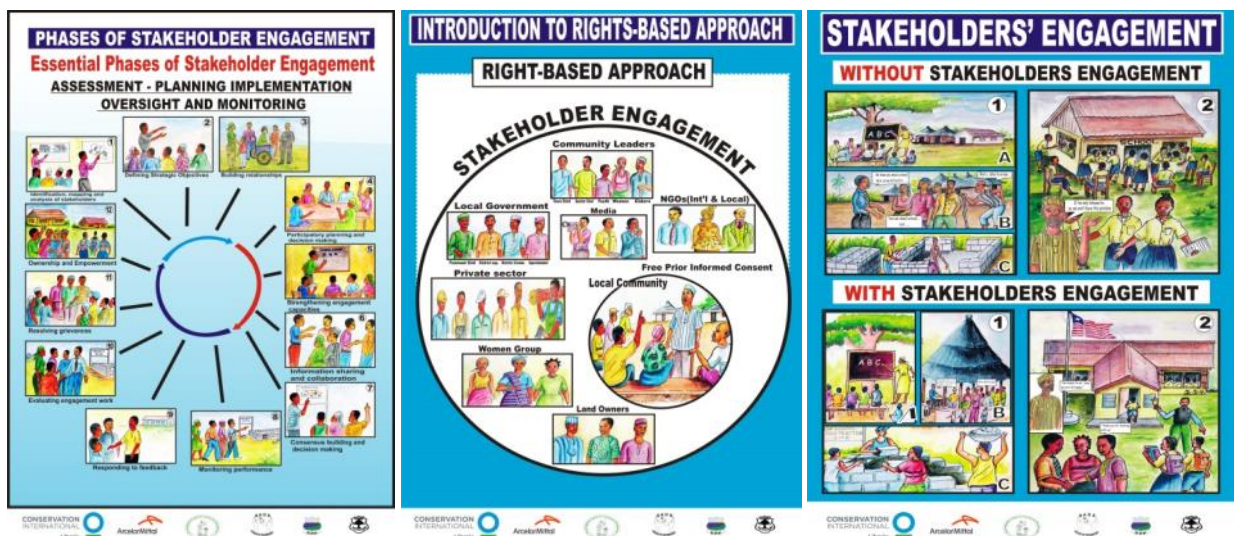
リベリア全体が直面していたエボラ出血熱という課題もひと段落。CI のスタッフもようやく現地に入れる状態となり、コミュニティとの現地での取組を本格化させています。今期、私たちが力を入れたのは、現地関係者との関係の強化、森林管理の支援と東ニンバ山自然保護区の境界線の明確化、保全契約に関する調査、そしてエボラ出血熱予防のための普及啓発の継続です。

現地関係者との関係の強化

私たちが現地を離れざるを得なかった期間中、地方政府で地域開発を管轄する部局のトップをはじめとした職員の入れ替わりがありました。ニンバでプロジェクトを実施する上で、鍵となる人たちです。私たちは、まず、新しく着任した政府関係者との関係を築き、現地でのコミュニティとの取組を知ってもらうことにしました。今では、私たちがどんな取組をしているのか、コミュニティの生活や東ニンバ山自然保護区の資源管理にどう良い影響をもたらすか、よく理解されています。

森林管理の支援と東ニンバ山自然保護区の境界線の明確化

コミュニティは、森林管理の主役です。コミュニティは、実は、様々な権利を持ち、意思決定のプロセスに参加することができますが、それらのことは、きちんと理解されていません。今期、私たちは、ツールキットを使って、コミュニティが様々なプロセスに参加していくためのトレーニングを重ねました。

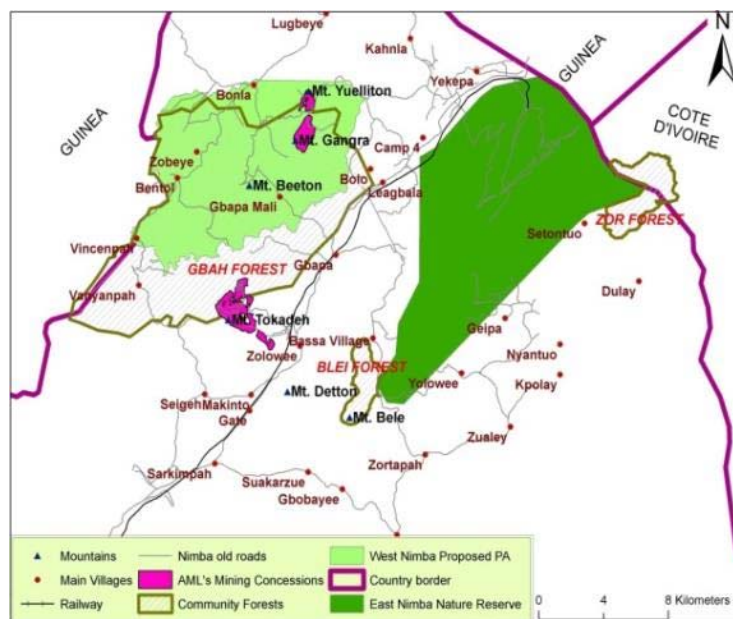


コミュニティ参加のためのツールキット



トレーニングの様子

東ニンバ山自然保護区の管理委員会の依頼を受け、保護区の境界線をはっきりさせるための準備を手伝いました。コミュニティと森林開発局のレンジャーが集まり、保護区と隣接する二つのコミュニティ林の間に線を引いていきました。境界線がはっきりしないと、どこからが保護区かわからず、そうと知らずに保護区内で禁じられている行為をしてしまう恐れがあります。そのため、境界線を明確にすることはとても重要なのです。



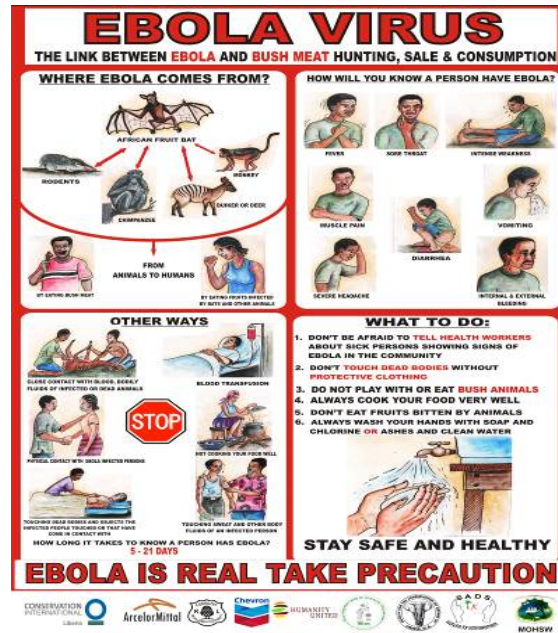
東ニンバ山自然保護区周辺の地図

保全契約に関する調査

私たちは、パートナーである「技能及び農業開発サービス（Skills and Agricultural Development Services : SADS）」と「コミュニティの権利拡大のための農村統合センター（Rural Integrated Center for Community Empowerment : RICCE）」を通じて、保全契約を新たに結ぶ候補コミュニティであるヨロウィーとゴナコリーで調査を行っています。保全契約がこの二つのコミュニティにとって適切な手段かどうか、もうすぐ調査結果が出る予定です。

エボラ出血熱予防のための普及啓発の継続

エボラ出血熱の流行は収まりましたが、油断は禁物です。私たちは、保健省と森林開発局と協力し、エボラ出血熱と野生動物の関係、エボラ出血熱の予防方法、生物多様性保全の重要性について普及する取組を続けています。



挑戦

エボラ出血熱が流行していた期間に私たちが現地を離れていたという事実は、それ以前築き上げられていた地元関係者との信頼関係に影響を及ぼしました。私たちは、再び信頼関係を築き、私たちがこれからもこの地域で活動が続けると理解してもらうため、じっくり時間をかけています。

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。